

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2013.11.25 号外 連絡先 FAX 042-555-1911



沖縄の海兵隊が パラシュート降下訓練 11月18日から21日まで

20日16時02分、突然、横田基地のC-130輸送機1機から6人がパラシュートで降下しました。旋回後2回目は16時09分、7人が降下。3回目は16時17分、6人が降下しました。その後、16時40分に、およそ1000mの上空からパラグライダーで6人が降下しました。合計で25人が降下しました。

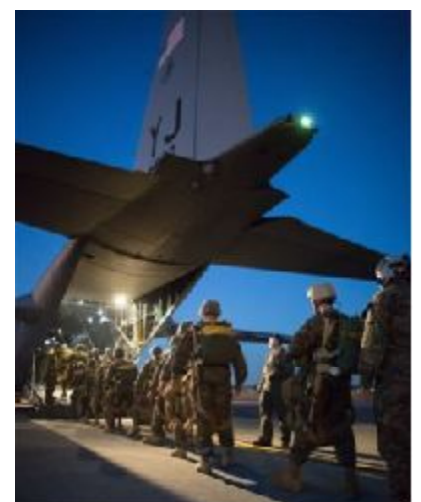
実は、11月18日に北関東防衛局（横田防衛事務所）から、周辺自治体に対し、18日～21日、横田基地で、人員降下訓練を行うとの通告があったことが、20日のパラシュート訓練後に分かりました。これほどの訓練が、無通告のはずありませんよね。

横田基地にもパラシュート降下する兵士が2～3名いるらしいのですが、25名となると外部からの部隊によるパラシュート降下訓練です。が、事前の通告に部隊名はありません。

今回の訓練はこれまでと違った特徴がありました。一つは、機体後部の開口部からパラシュート降下していることです。オスプレイは後部しか開口部がないので、オスプレイ用の訓練でしょうか。

二つは、兵士が荷物を抱えて降下していることです。戦場で兵士だけが降下しても武器など持っていなければ戦えませんから。

より実戦的な訓練が横田基地で行われています。



海兵隊が横田で 夜間もパラシュート降下訓練

21日昼は、ケネディ米駐日大使が米軍横田基地を訪れていました。

21日夜は、沖縄の**第Ⅲ海兵遠征軍の第三海兵師団と海兵隊、第3偵察大隊**がパラシュート訓練を行っていました。（写真、下2枚：米軍横田基地HPより、以下の部隊説明は米海兵隊HPより抜粋要約）

沖縄には二つ（第Ⅲ海兵遠征軍と米海兵隊太平洋基地）の海兵隊があります。第Ⅲ海兵遠征軍司令官（及び米軍沖縄地区調整官）は、三つ星の中将。米海兵隊太平洋基地司令官は、二つ星の少将です。

第Ⅲ海兵遠征軍は、第一海兵航空団、**第三海兵師団**、第三海兵兵站群、第三海兵遠征旅団、第31海兵遠征部隊で構成され、部隊の大部分は沖縄に駐留し、最大19,000名近くの海兵隊員と海軍兵が計10箇所の基地と航空基地に駐留しています。

第三海兵師団は、キャンプ・コートニーに司令部を置き、少将（二つ星）が指揮を執る、第三海兵遠征軍の陸上戦闘部隊です。

海兵師団は約7,500名の海兵隊員および海軍兵から成り、歩兵連隊、砲兵連隊、本部大隊、**偵察大隊**、戦闘強襲大隊で構成されています。

（それにしても、21日の夜間訓練は、何人の兵士が降下したのでしょうか。）

NASA（アメリカ航空宇宙局）のガルフストリームⅢが飛来（11月号外の裏面）

NASA（アメリカ航空宇宙局）のガルフストリームⅢ（C-20A）が、アメリカの予算審議のストップにより当初のスケジュールよりほぼ一月遅れで、11月8日、来日しました。離陸は、14日でした。

去年は10月4日から5日間ほど、横田基地をベースにして、あちこち調査に出かけていました。

米軍横田基地は、「2012年10月5日から9日まで、NASA ドライデン・リサーチセンターのガルフストリームⅢによる火山活動観測飛行を支援した」と発表しました。

「横田基地の管制官はガルフストリームⅢが飛行する空域を調整し、気象観測隊は飛行する41,000フィートの気象情報を提供しました。観測された火山活動に関するデータは、アメリカと日本の科学者に共有される」とのことでした。

今年は何をしたのでしょうか？

右の写真は、11月13日、14日と横田にいたOC-135S オープンスカイです。偵察機、観測機などと書かれているものもありますが、横田基地に何しに来たか分かりません。



（写真：NASAのガルフストリームⅢ）



10月22日 横田のC-130の編隊飛行 三沢で砂袋の投下訓練 の続報

10月22日、横田基地所属C-130Hが10機で編隊飛行訓練をしました。2機は横田基地に戻り、旋回飛行やローパスをしていましたが、8機はどこに行ったのかと思っていました。なんと三沢で砂袋のパラシュート投下訓練をしていました。以下は、その後、分かったことです。

「J-Wing」誌（14年1月号）に載った記事によると、三沢に行った1番機には、第374空輸航空団のマーク・オーガスト大佐が搭乗していたそうです。三沢で投下させた砂袋は、この日の夜に横田基地のC-12が持ち帰ったということです。飛行機だと、三沢基地も近いものです。

米海兵隊岩国基地で 第1回日米合同航空安全研修会が開かれた

地元新聞などの報道によると、11月16日、岩国基地で第1回日米合同航空安全研修会が、米軍や自衛隊、民間のパイロットら約90人が参加して開かれました。

「航空機の増加に伴い、同基地が管制する上空約900m、半径約8kmの空域が年々混雑していることを受け、この空域で航空機を運用する日本の民間航空関係者や操縦士、米軍関係者が交流を深め、安全な飛行環境づくりを促進しようと同基地が初めて企画」しました。

横田基地では、2010年1月と3月、2011年9月、2013年4月の4回、「関東平野空中衝突防止会議」が開催されています。今年行われた会議の資料は入手することができましたが、それを見ると、米軍機の飛行によって、関東平野の空が、危険になっていることが、よく分かります。

岩国基地は、「米軍再編で米空母艦載機59機や空中給油機15機が移駐し、同基地が“極東最大級の米軍基地”になると、米軍管制岩国空域の米軍機飛行が現在の2倍になり混雑が予想される」と報道されています。とても危険な空になります。

KC-130 空中給油機はオスプレイに空中給油する飛行機です。いまでもオスプレイは岩国基地を使用していますが、KC-130 空中給油機が普天間基地から岩国基地へ移転されれば、岩国はじめ本土でのオスプレイ低空飛行訓練は激化し、命の危険と被害はさらに拡大されるでしょう。

岩国基地に住民がたてた看板には「嘉手納へ969km 横田へ672km」と書かれているそうです。横田基地にも、危険が迫っているようです。MVもCVもオスプレイはNO！